

平成 2 5 年 度
事 業 報 告 書

自 : 平 成 2 5 年 4 月 1 日
至 : 平 成 2 6 年 3 月 3 1 日

公 益 財 団 法 人 琵 琶 湖 ・ 淀 川 水 質 保 全 機 構

概 況

平成25年度は、4月1日に公益財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構として登記し、広く公益の実現に貢献すること、並びに社会からの期待にふさわしい事業運営を目指すことを使命に、新たなスタートを切った。

管理運営活動では、所要の会議を開催し、関係者との協議・合意形成を図りながら「公益財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構の今後のあり方」の見直しを行った。また、平成26年度からの就任を予定し、常務理事兼事務局長の公募選考を実施した。

また、研究開発事業活動では、琵琶湖・淀川流域の水質保全、健全な水環境の実現に向けた調査研究や研究助成を積極的に行うとともに、水環境情報の収集・解析・提供や水質浄化に係わる広報・啓発活動を通じて、流域内での連携や水環境保全活動の推進を図り、琵琶湖・淀川流域の水環境課題の解決に向けた取組みを展開した。

I . 管理運営活動等

1. 評議員会、理事会、評議員会幹事会、理事会幹事会

評議員会、理事会、評議員会幹事会、理事会幹事会では、事業運営全般について審議検討を行った。

(1) 評議員会

- | | |
|---------|----------------------------------|
| 第1回評議員会 | 平成25年6月27日（於：ホテル阪急インター
ナショナル） |
| 第2回評議員会 | 平成26年2月28日（於：ホテル阪急インター
ナショナル） |

(2) 理事会

- | | |
|--------|---|
| 第1回理事会 | 決議の省略により実施
(決議があったと見なされた日：平成25年6月7日) |
| 第2回理事会 | 平成25年6月27日（於：ホテル阪急インター
ナショナル） |
| 第3回理事会 | 平成26年2月14日（於：大阪マーチャン
ダイズ・マート） |

(3) 評議員会幹事会・理事会幹事会

- | | |
|-----------------------|----------------------------------|
| 第1回評議員会幹事会・理事会幹事会合同会議 | 平成25年5月31日（於：大阪マーチャン
ダイズ・マート） |
| 第2回評議員会幹事会・理事会幹事会合同会議 | 平成26年2月5日（於：国民會館武藤記念ホール） |

2. 公益財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構の今後のあり方の見直し

関係者との協議・合意形成を図りながら、平成26年度から平成28年度までの3カ年の事業計画及び運営計画を定めるとともに、「公益財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構の今後のあり方」の見直しを行った。

3. 常務理事候補者の選定

平成26年度からの就任を予定し、常務理事（事務局長を兼務）候補者について、公募選考を実施した。結果、候補者1名が評議員会、理事会の決議を経て常務理事に就任した。

第1回常務理事選考委員会

平成26年1月16日（於：機構会議室）

第2回常務理事選考委員会

平成26年1月24日（於：大阪マーチャンダイズ・マート）

II. 研究開発事業等

平成25年度は、平成24年度に引き続き、琵琶湖・淀川流域の水質保全の課題について「遊んだり、泳いだりするのに適した河川や湖にする」という目標のもと、自主研究や研究助成、広報・啓発などの事業を実施した。

1. 水質保全調査研究開発事業(自主事業)

(1) 生活環境保全対策・健康リスク問題に関わる調査検討

琵琶湖・淀川流域の水質に係る問題について、調査研究を実施した。主な研究結果は以下のとおりである。

① 流域管理における面源負荷削減のための負荷量実態調査

多様な有機物の混合体である初期フラッシュ水および発生源となる道路塵埃について、100日間の生分解性試験を実施し、難分解性および有機物指標の観点から考察した。その結果、0.2mm未満の粒子径が占める割合が大きく、高い有機物濃度を示すことが明らかとなった。

② 琵琶湖・淀川流域を捉えた水質データの解析

流域の水質データを用いた経年変化、把握等により、今後の水質管理策定や対策のための検討補助となる図示化・統合化の検討を行った。

整理したデータは、水質ではpH、BOD、DO、SS、T-P、T-N等、水質に影響を与えると考えられる要因として気温、水温、降水量等、また、面的項目には土地利用図、人口密度、下水道施設等である。公共用下水道や合併浄化槽などの整備によって、流域全体ではBOD、SS等は改善傾向、DOも回復傾向にあることが読み取れた。

(2) 自主調査研究成果の外部公表、学会参画による知見収集、講義・講演活動等

① 学術誌での論文公表

- ・「木津川上流の小河川における糞便汚染指標細菌の現状把握」、環境技術、42(8)、489-495、2013.
- ・「土壌浸透処理による赤玉土のリン除去性能および吸着特性の長期カラム実証評価」、水環境学会誌、37(2)、55-62、2014.
- ・尾崎則篤、和田桂子(2013):「市街地からのノンポイント汚染物質の流出機構」、水循環 貯留と浸透、第90号、9-13.

② 国際会議、国内会議での口頭講演

- ・16th International Conference on Diffuse Pollution and Eutrophication (2013.8.18-23 China) “Non-Point Water Pollution from Urban Roadways: An Analysis of Road Dust Particle Size”
- ・第48回日本水環境学会年会(2014年3月17~19日、宮城)
「道路からの初期路面排水中の有機物および栄養塩類の汚濁由来に関する考察」
「市民による河川水質調査結果に関する報告」
「GISによる面的な水質情報を用いた琵琶湖・淀川流域における下水道整備の効果分析」
- ・3rd International Conference on Environmental Engineering, Science and Management (2014年3月, Thailand)“Proposal for Better Management of the Aquatic Environment of the Lake Biwa Watershed”

③ 講義・講演活動など

- ・「琵琶湖・淀川流域における水質保全対策と雨水管理技術の融合」、雨水技術情報交換会(2013年8月).
- ・「琵琶湖・淀川流域の水質保全、水質浄化技術」、国際湖沼委員会(ILEC, JICA)(2013年9月).
- ・日本下水道新聞(2013年9月).
- ・古米弘明、尾崎則篤、和田桂子(2013年11月):「市街地からの放射性物質の流出」、日本水環境学会ノンポイント汚染研究委員会、東京大学大学院工学研究科附属水環境制御センター.

(3) 学術委員会の開催

水質保全のために実施している調査研究の現状を報告し、学術委員から幅広い指導・助言を得た。

- ・開催日：平成25年12月24日
- ・会場：エルイン京都
- ・議題：
 - ①水質保全研究助成について
 - ②水質保全調査研究について

(4) 琵琶湖・淀川水質浄化研究所報告の公表

琵琶湖・淀川水質浄化研究所が実施した調査研究活動(研究論文・報告等)を平成5年度からとりまとめており、平成25年度においても平成24年度の調査研究成果をとりまとめ、BYQ水環境レポートに掲載した。

2. 水質保全広報・啓発事業

(1) BYQ水環境レポート公表による水環境情報の広報

琵琶湖・淀川流域における水利用、水質、水質保全施設等々の情報を総合的に網羅した年次報告書「BYQ 水環境レポート」を、継続して発行・公表している。

平成25年度は、平成24年度版として500部作成し、関係機関や図書館等に配布するとともに、幅広く一般に広報する目的から、ホームページに概要版として「琵琶湖・淀川流域の水環境の現状」を掲載した。

(2) WAQU² (わくわく) 調査隊による水環境保全の啓発

身近にある湖沼や川の状況を、流域に住む住民自らが主体的に出向いて調べることにより、その水質に興味を持ち、水に親しみを感じ、さらに水環境について考えてもらうきっかけづくりを目的として実施している。5月の調査では「身近な水環境の全国一斉調査」にも参加した。

- ・平成25年度：隊員数228人、調査地点288カ所(うち2回参加：172人)
- ・調査日：平成25年5月25日、11月23日

(3) BYスタンプラリーによる水環境保全の啓発

流域に住む住民が水環境の保全活動に興味を持ち、参加するきっかけとするとともに、活動団体の相互コミュニケーションの進展と連帯感の醸成を目指すために、NPO等の協賛のもとに実施している。

- ・平成25年度：協賛施設 25施設、協賛団体 NPO、市民団体等55団体
- ・参加者数：65人

(4) 琵琶湖・淀川流域の広報・啓発のための水情報冊子「散策ブック」の発行

流域内の河川について、その歴史や見どころなどを紹介する情報誌を企画・編集・発行している。

平成25年度は「大川と大阪市内河川」「木津川上流」「高時川・余呉湖」「桂川・由良川源流」「京の川」の5冊を発行し、関係機関や一般に配布するとともに、ホームページ上にも掲載した。

(5) 出展・講座等

- 出前講座
 - ・平成25年12月4日 「すいたシニア環境大学」

3. 水質保全活動支援事業

平成21年度より、地球温暖化や微量有害物質の問題等、琵琶湖・淀川流域が抱える水質保全の課題解決に資することを目的に研究助成を実施している。

また、平成26年度から、琵琶湖・淀川流域で生活する小学生から高校生の年齢の子どもたちが行う水質保全活動を対象にした活動助成をスタートすることとし、募集を開始した。

(1) 水質保全研究助成

平成25年度は、平成24年度からの兵庫県環境研究センター、大阪大学の継続2件に、大阪市立環境科学研究所、関西医科大学、京都大学、京都府立大学、大阪薬科大学、大阪府立大学の新規8件を加えた10件を選考委員会にて採択した。助成した研究内容について3月に報告会を開催し、幅広く助成成果についての知見共有を図った。

【平成25年度研究テーマ】

- ① 水系水質管理のための有機性汚濁指標とその代表性に関する研究
- ② 琵琶湖・淀川流域の水質・底質中の微量有害物質の挙動把握および分析手法の確立等に関する研究
- ③ 琵琶湖・淀川流域における大腸菌などの病原性微生物の動態把握と削減技術に関する研究

【成果報告会】

- ・開催日：平成26年3月20日
- ・会場：ドーンセンター（大阪府立男女共同参画・青少年センター）
- ・参加人数：行政、企業、団体等 約50名

(2) 琵琶湖・淀川こども水質保全活動助成

【助成対象事業】

琵琶湖・淀川流域で生活する小学生から高校生の子どもたちを対象とした、「水環境について知り、理解する活動」、「水質の保全・改善に関する活動」

【助成対象団体】

- ① 琵琶湖・淀川流域で水質保全活動に取り組むNPO法人、市民団体等
- ② 小・中・高・特別支援学校及びPTA、部活動